

ヒアリング資料

中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会

提出資料

アスベスト被害の当事者となって…！

塩見 幸治

胸膜中皮腫の発症、そして手術を選択

2014年12月初旬、咳が出始めて「風邪をひいたかな」と思っておりましたが、咳がなかなか収まらず、年が変わっても収まるような気配がないため、かかりつけ医で胸部レントゲンを撮ってもらいました。

すると、右肺に胸水が4分の1ほど溜まっており、胸水の検査が必要ということで、県立尼崎病院（現尼崎総合医療センター）呼吸器内科を紹介され、1月末に検査入院しました。そして、「胸膜中皮腫」と診断されました。

今度は呼吸器外科に移って、2月中旬に内視鏡検査を行いました。その結果、「上皮型と骨肉腫型の2相型の胸膜中皮腫でステージⅡ」と診断されました。「他の疾患がなければ手術は可能」だが、「手術をしても予後はよくないかもしれない」と説明され、担当医師は手術を積極的に勧めることはしませんでした。私自身が手術することを選択しました。そして、手術日が4月8日と決まり、様々な検査が始まりました。

手術は1か月余の延期

ところが、その検査の途中で、身体全身に粟疹がでて「スチーブンスジョンソン症候群」と診断され、皮膚科及び眼科の治療が優先されることとなり、その結果、手術日が5月20日に延期となりました。

手術は、14時間半かかりました。術後の経過は順調とのことでしたが、結局、中皮腫が横隔膜・心膜・神経細胞にも広がっており、結果的には「ステージⅢ」であったことと、手術時間が長かったため、体力の消耗が著しく、手術後退院してからも思うように食事ができない状態が続きました。

1月下旬には5回目の抗がん剤を

7月7日には、右胸部の温熱洗浄と抗がん剤注入の手術もあり、その後も思うように食べられず、点滴と栄養補助食品で過ごす毎日でした。

何とか少量ながら食事ができるようになったのは、お盆を過ぎたころでした。

2014年9月からは、経口抗がん剤UFTと右胸部への抗がん剤注入（5週ごとに5回の予定）が始まりました。

抗がん剤を注入した後は1週間程度しんどい日が続きますが、今では、体力も大分回復し、外食もできるようになりました。

今年1月下旬に、5回目の抗がん剤注入があり、その後、再度、右胸部の温熱洗浄手術が行われる予定となっております。

尾浜町—関西スレートによる「アスベストばく露」か

私は、1951年（昭和26年）3月、常光寺奥ノ坊（皇大神社東）で生まれ、1957年東大物1丁目（^{だいまつ}県立尾崎病院西）に、そして、1959年（昭和34年）に尾浜に転居し、尾浜の中で住居は変わったものの、今日まで、尾浜町に居住しております。

尾浜に転居した場所は、ちょうど関西スレート工場の西側でした。そして、その頃の周辺の状況は、2005年7月28日の毎日新聞に、「悪夢の遊び場」「舞う石綿マスクもつけず」という見出しで、関西スレート工場で働く労働者の実態や、周辺の子供たちがスレートで遊ぶ状況が報道されておりますが、まさにそういう状況でした。

スレート板が高く野積みされた一角は、子供たちの絶好の遊び場でした。工場では、タオルをほっかぶりした労働者がスレートを製造しており、工場と外部との仕切り（塀など）もなく、工場から常時ほこりが舞い上がり拡散しておりました。

周辺道路には白い粉が堆積し、自転車や車が通ればそれが舞い上がり、雨が降れば、真っ白い雨水で水路が白濁し、^{しづか}庄下川へ流れ込んでおりました。時間遅く尾浜の銭湯に行きますと、湯船のお湯が白く濁っていたことなども、多くの住民が体験していることです。

私のアスベストばく露も、そういう環境下によるものと考えられますが、子供のころ同じような体験をした人たちが多くおられるわけで、私がアスベストばく露による胸膜中皮腫を発症したことで、多くの方が石綿公害による疾病の発症リスクを抱えていることが、改めて認識されるに至りました。

昨年11月28日に、尾浜で「アスベスト学習会」をおこない、そのための案内を私の発症も含めて尾浜地域にお知らせしました。

尾浜には、関西スレートで働いていた方や、胸膜プラークがあり経過観察の方も結構おられます。その人たちといっしょに、アスベスト公害問題についての認識と理解を地域に広げるために、何ができるのか、考えて取り組んでいければ…とっております。

中皮腫-アスベスト疾患-患者家族の会

尾崎支部「尾りかん」第48号

2016年1月20日発行

尼崎かん

No.12

尼崎市長洲中通 1-7-6

中皮腫・アスベスト疾患

患者と家族の会 尼崎

TEL・FAX 06-4950-6653

AMARIKAN

09.11.20

淡路島

患者さんも7名参加しました



10月17日の淡路島旅行はとても楽しかったですね。次回はどこにしましょう、有馬？赤穂？今回の参加者を上回る人数で元気を分けたいものです。

この間、色々な相談が続いています。1990（H2）年に胸膜中皮腫で亡くなった機関据付工。制度問題による時効救済の再延長で申請が間に合いました。

国庫被害による肺がんやじん肺の可能性のあるケース、家庭内曝露と考えられる事例、「石綿健康被害に関する権威ある専門家から構成されている判定小委員会」で「胸膜腫瘍であるという以外の判断はできない」として、石綿救済法不認定とされながら、最終的に中皮腫と認められたケースなど・・・

民主党新政権は〈弱者救済〉に積極的に見えます。私たちも病气や悲しみと向き合いながら、認定疾病の拡大、被害者の確かな生活補償のために一層がんばります。

静岡のアスベスト国家賠償請求訴訟が11月11日結審しました。傍聴・署名など協力ありがとうございました。必勝を期したいと思います。国は責任を認めよ！

○11月例会（どなたでも参加できます）

11/28（土） PM1時半～ 於 事務所

お話し「建築物のアスベストを見逃すな！」

（巴 元尼崎市公害対策課長）

○12月例会 忘年会（もちろんどなたでも参加できます）

12/13（日） PM2時～ 会費3,000円

於 アルカイクホテル（阪神尼崎）22F

「トップオブザクリスタル」

早めに申し込んで下さいね！

世話人： 武澤 泰、平田 忠男、平地 千鶴子、瀬川 雅夫
（事務局）： 飯田 浩

なんでこんな恐ろしい病気に……

栗野 通博 一九五六年生、杭心瀬、常光寺に居住

二〇〇九年四月末、会社の健康診断後現場で作業中の私に、本社から電話があり、「ケリちゃん、すぐ帰ってきて。なんか肺が破れてるみたいやで。レントゲン写真（すでに会社に到着）持って大きな病院行ってきて。」

次の日、妻と県立尼崎病院の呼吸器内科を受診すると、医師は「気胸かもしれませんがゴールドンウィーク明けまで様子を見ましょう。」

ゴールドンウィーク明け再び呼吸器内科へ。X線は変わらず、次の日に呼吸器外科を紹介され、数日後、気胸の手術時に胸腔鏡にて中皮腫が発見されました。（私は全身麻酔、妻だけに病名が告げられ）一週間後、病理組織検査の結果、中皮腫と確定し、妻から病名を聞かされました。

すぐに患者と家族の会尼崎支部へ行き資料をもらい、茫然としながら二週間ほど眠れず食べられず、今でも信じられませんが、「受け入れる」のに時間がかかり、いろんなことを考えました。（病の世界↑健康な世界）

その後、まわりの人たちからも励まされ、とりあえず六月二十四日に右肺と胸膜の摘出手術を受け、七月一日に退院。八月上旬に再び入院して温熱化学療法も受けた後、自宅で療養。

二カ月後、せき、たん、高熱が出て、一〇月二十四日にまた入院しました。洗浄処置のため二ヶ月間の入院生活、やっと二二月二十四日に退院し、クリスマスとお正月は自宅で過ごすことができました。

発病から八カ月が過ぎましたが、いつも思うのは、病（痛さ、つらさ、もとの元気な身体にはもどれない、リ

アルに死と直結している)とともに残りの人生を生きていくということです。なってしまったことは仕方ないですが、言っても仕方ないですが、同じ病気で亡くなられた方も無念でしょう。

私は言いたいです。

「なんでこんな恐ろしい病気にならなあかんねん」と……

(『尼りかんAMARIKAN』〈No.13〉2010年1月)

2011年4月9日、お花見の後、事務所で



WHOが勧めるがんの痛みの治療法

- ① できる限り飲み薬で治療する
- ② 時刻を決めて規則正しく薬を使う
- ③ 痛みの強さと性質に応じて適切な薬を選ぶ
- ④ 患者に応じて痛みの取れる量の薬を使う
- ⑤ 効果と副作用のバランスを取って薬を使う

明日を託せるか

「異変」の現場から

「神戸新聞」2009年8月15日

「いま生きられるか
分らない。薬のことを
思つて気がたない」。
尾崎由乃のうつうつ選手
の男性53は、時折暴走
切れまわるとも言え
た。
標榜胸腺癌。今年5
月、リンパ腫を患い、
影が現れ、生体検査の
結果、医師の寝息を待
たれたアスベスト(石綿)
が原因のがんの一種だっ
た。妻(46)は幼少時の
将来に去来をきた。
2009年9月、佳良
が寛解した手術機械を力
！、クボタ建設(尾崎工場の
尾田)の事務職。尾崎
がゴキウ(ゴキウ)と呼ばれた
癌は、工場を去る中心
田にたがっていた。

アスベスト禍

男性は馬の約10倍
肉に生れ積つたがアス
ベストを扱う仕事は就い
たことがない。戸惑いが
らも、6月には肺を摘
出する術を受けた。膝部
から腫瘍が伸び、腕の
術痕が去ると感。
クボタは1957〜76
年アスベストの一種毒
性の強い角閃石を水
道管を産。当時、青石綿
は大量に輸入されてい
た。尾崎の妻は肺がん
に罹り、尾崎は全治無
効にた。
しかし、尾崎の療養期
を産を産する中、尾崎
の癌は増進すること増
加。大阪府立癌発生研
究所の尾崎(尾崎)の調査
では、2007〜24年に死

不十分な補償に怒り

妻がどう迎えるか
れる。
国は06年3月に石綿
被害救済法を施行。08年12
月の法改正では、救済期間
を拡大した。しかし中野
・じん肺アスベスト被害と
家族の尾崎支部の飯田浩
事務局長(68)は「労災補償
など通つて遺族への補償
もなく、補償といふ水準
には遠く及ぶ」。
クボタとの約を
月後に行われた前回の総
選では、複数の候補者がア

スベスト問題を地域の課題
として訴えた。今回、マニ
フェストに「給付水準・内
容を引き上げる」とした政
党もあるが、どの候補も定
者の街頭演説でもほとんど
言及されない。
男性は抗がん剤を投与し
ながら自宅療養中。3人の
子どもはまた小学生。会社
は復帰を待つてくれている
が、手術後は体が思うよう
に動かない。「もう選手
には戻れないだろう」と
話す。

現在、救済法に基づく認
定を申請している。男性の
妻は「石綿の危険性に察付
いてながら早い段階で規
制しなかった国の責任は重
い。選挙では、補償問題を
真剣に考えられる人が選
ばれてほしい」と訴える。
飯田事務局長は「阪神間、
特に8区(尾崎市)では選
けて通れない課題。地域の
代表として、候補は声をあ
げることが」と強調した。
(岡西篤志)



右肺を全摘出した妻を気遣う妻。「国は生活でできるだけの補償を」。切実な思いを1票に託す尾崎市内

被害者たちの声